

|   |                                   |      |      |       |        |      |         |  |
|---|-----------------------------------|------|------|-------|--------|------|---------|--|
| 登録コード   | A1512100                          |      |      |       |        | 担当教員 | 平松 浩二 他 |  |
| 授業科目  | 動物資源生命科学概論                        |      |      |       |        |      |         |  |
| 英文授業名   | Compendium of Animal Life Science |      |      |       |        |      |         |  |
| 単位数   | 2                                 | 講義期間 | 後期   | 曜日・時限 | 金曜・4時限 | 対象学生 | 農学部1年生  |  |
| 講義室   | 共通教育13講義室                         |      | 授業形態 | 講義    | 備考     |      |         |  |
| <p>(1)授業のねらい<br/>         授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通<br/>         ・動物の生命現象ならびに動物関連産業に関わる基礎学力を有している。<br/>         ・専門学問分野における知識・技能を備え、それらに応用できる【専門知識と応用力】<br/> <b>【授業の達成目標】</b><br/>         ・動物生命科学の基礎的事項について理解し、説明することができる。<br/>         ・畜産の起源及び従来型の畜産学・畜産業について理解し、説明することができる。<br/> <b>【授業のねらい】</b><br/>         乳肉卵などの畜産物を供給する家畜、医薬品や化粧品の開発に欠かせない実験動物、獣害が問題となっている野生動物。我々の生活に深く関わっている動物や畜産物について多角的に学びます。この授業のねらいは、次の通りです。<br/>         1. 畜産の起源と従来型の畜産学・畜産業について理解する<br/>         2. 高度な技術を用いた動物生命科学に関する一般的事項を理解する<br/>         これら2項目について実現できていることを標準的な目標とします。<br/>         これら2項目について体系的に理解し、説明できることを理想的な目標とします。</p> <p>(2)授業の概要<br/>         この授業は、動物資源生命科学コースを担当している15名の教員によってリレー式に開講されます。家畜・野生動物・実験動物など我々の生活に深く関わっている動物や畜産物について、多方面から概説します。</p> <p>(3)授業計画<br/>         第1回(9/28): 神 勝紀 家畜はどこから来たか<br/>         第2回(10/5): 小野珠乙 家畜の種類はたくさんある<br/>         第3回(10/12): 平松浩二 動物の体はどうなっているか<br/>         第4回(10/19): 米倉真一 動物の体はどの様に調節されているか<br/>         第5回(10/26): 高木優二 動物はどの様に増えるか<br/>         第6回(11/2): 上野 豊 家畜をうまく養う<br/>         第7回(11/9): 竹田謙一 動物はなぜ行動するか<br/>         第8回(11/16): 諸白家奈子 家畜の増産とバイオテクノロジー<br/>         第9回(11/21): 田中沙智 動物が体を守る仕組み<br/>         注意: 11/21は水曜日ですが、金曜日の講義を行います!<br/>         第10回(11/28): 河原岳志 畜産物をどの様に利用するか<br/>         第11回(12/7): 下里剛士 乳製品はどの様に製造されるか<br/>         第12回(12/14): 泉山茂之 野生動物と私たちの暮らし<br/>         第13回(12/21): 富岡郁夫 実験動物と私たちの暮らし<br/>         第14回(1/11): 高谷智英 動物による医薬品の生産<br/>         第15回(1/25): 鏡味 裕 動物生産と私たちの未来<br/>         第16回(2/1): 平松浩二 期末試験</p> <p>(4)自主学習の指針<br/>         自主学習では参考書の使用を薦めます。後掲の参考書や授業で紹介する書籍を図書館等で利用して下さい。また、各授業で配付される資料やレジュメなども活用して自主学習に役立てて下さい。</p> <p>(5)成績評価の基準<br/>         毎回の授業で行う小テスト(50%)と期末テスト(50%)で評価します。授業中の質問と同程度の問題が解ければ「水準にある」、小テストと同程度の問題が解ければ「やや上にある」、小テストを元にした応用問題が解ければ「かなり上にある」、関連分野を含めた応用問題が解ければ「卓越している」と判断します。成績を100点満点に換算し、90点以上を「秀」、80-89点を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」とします。</p> <p>(6)事前事後学習の内容<br/>         後掲の参考書や授業の中で紹介する書籍を利用し、上述の授業計画に沿っての事前学習を推奨します。また、授業で配布されたレジュメや資料および講義の最後に行う小テストを用いた復習を推奨します。</p> <p>(7)テストやレポートの予定<br/>         毎回の授業の最後に小テストを行います。毎回の授業内容を小テストで確認して下さい。第16回目に期末試験を行います。</p> <p>(8)成績評価の方法<br/>         小テスト(50%)と期末試験(50%)で評価します。小テストは標準的な達成レベル、期末試験は理想的な達成レベルを最高点に設定しています。90点以上を「秀」、89-80点を「優」、79-70点を「良」、69-60点を「可」、59点以下を「不可」として評価します。</p> <p>(9)質問、相談への対応および連絡先<br/>         個々の講義内容については、それぞれの授業時間中に対応します。それ以外については、取りまとめ教員の平松までメールseitak@shinshu-u.ac.jpで質問して下さい。</p> <p>(10)履修上の注意<br/>         動物資源生命科学コースの導入という位置付けの講義ですが、他のコースの受講者にも理解できるように説明します。なお、出席が2/3に満たない受講者には、期末試験の受験を認めないので、注意して下さい。</p> |                                   |      |      |       |        |      |         |  |
| <p><b>【教科書】</b><br/>         特に指定しませんが、毎回、資料やレジュメを配布します。<br/> <b>【参考書】</b><br/>         畜産入門、渡邊昭三編、実業出版<br/>         畜産学入門、唐澤豊・大谷元・菅原邦生編、文永堂出版<br/>         農学生命科学を学ぶための入門生物学、山口高弘・鳥山欽哉編、東北大学出版会</p>  |                                   |      |      |       |        |      |         |  |